

# 令和元年度 東海教育オーディオロジー研究協議会 第16回講演会

- 1 日 時 令和2年2月1日(土) 10:10~16:00
- 2 会 場 名古屋市総合社会福祉会館 TEL 052-911-3191  
 北区清水四丁目17-1(北区総合庁舎内)  
 ※地下鉄名城線「黒川」下車徒歩5分、黒川交差点 南 300m



- 3 講 師 鷹の子病院 愛媛人工内耳リハビリテーションセンター  
 センター長 高橋 信雄 先生  
 愛知県立千種聾学校 校長 大塚 とよみ 先生
- 4 日 程 9:50~10:10 受付  
 10:10~10:15 開会式・日程説明  
 10:15~11:45 講演『聾学校の専門性の継承』 愛知県立千種聾学校 校長 大塚 とよみ 先生  
 11:45~13:00 昼食  
 13:00~15:30 講演『難聴児に関わってきて思うこと』 鷹の子病院 センター長 高橋 信雄 先生  
 15:30~15:50 質疑応答  
 15:50~16:00 閉会式

5 参加費 会員無料(非会員:1,000円)

6 定 員 100名

7 申 込 (1) 方法

参加申込書に必要事項をご記入のうえ、各校事務局員までご提出いただくか、FAX または HP からメールでお申し込みください。

申込先: 愛知県立千種聾学校内 東海教育オーディオロジー研究協議会事務局 小岩

メールアドレス: toukai\_ed\_aud@yahoo.co.jp

F A X : 052-723-6824 ※電話でのお申し込みはご遠慮ください。

H P : http://www.normanet.ne.jp/~tokai/

(2) 締 切 **令和2年1月17日(金)**

準備の都合上、手話通訳が必要な方は1月7日(火)までにお申し込みください。

- 8 その他
- ・公共交通機関でお越しください。
  - ・昼食は、会場でおとりいただけます。
  - ・17時より懇親会を計画しています。ぜひご参加ください。

.....切り取り.....

## 東海教育オーディオロジー研究協議会 第16回講演会 参加申込書

令和 年 月 日

お 名 前 :	ご 所 属 :
	Fax、Mail 等ご連絡先 :
手話通訳 : <u>必要</u> ・ <u>不要</u>	
参 加 : <u>午前</u> ・ <u>午後</u> ・ <u>終日</u>	懇 親 会 : <u>参加</u> ・ <u>不参加</u>

裏面に続く

## 9 紹介

(1) 午前の講師 愛知県立千種聾学校 校長 大塚 とよみ 先生

### (2) 講演要旨

平成 30 年度から順次実施されている学習指導要領では、①何ができるようになるか（新しい時代に必要となる資質能力の育成と学習評価の充実）、②何を学ぶか（新しい時代に必要となる資質能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し）、③どのように学ぶか（主体的で対話的で深い学び）の 3 観点で整理されている。

聾学校においてこのような学びを実現していくためには、聴覚障害が幼児児童生徒の生活や学習に及ぼす影響を十分に理解すること、言語力、コミュニケーション力等を高めるための自立活動に関する知識と指導力、また聴覚障害に配慮した教科指導力が必要である。

100 年をこえる聾教育の歴史の中で私たちの先達が積み上げてきた専門性を基に、新しい時代に求められる聴覚障害教育を創造していかなければならない。

### (3) 午後の講師

#### 高橋 信雄 先生

鷹の子病院 愛媛人工内耳リハビリテーションセンター『でんでんむし教室』センター長

<経歴>

東京学芸大学教育学部聾学校教員養成課程、筑波大学心身障害学博士課程修了後、筑波大学文部技官、国立特殊教育総合研究所研究員を経て、1983 年より愛媛大学教育学部教授。

主な研究テーマは、「新生児期から高齢者までの聴力検査」、「幼児期から成人までの補聴器フィッティング」、「人工内耳装用後のリハビリテーション」、「きこえとことばの発達指導」、「学校での学習支援や情報保障」である。著書には、『音遊びの聴覚学習』（学苑社 1992）、『聴覚障害児教育の歴史と展望』（風間書房 2012）（いずれも共著）など多数ある。

### (4) 講演要旨

過去40年間、難聴児に関わってきて、大きな変遷があり、時代の変遷をつくづく感じる日々です。

医療の面では、デジタル補聴器や人工内耳の一般化があげられます。教育面では2000年以降の特別支援教育への移行に伴う教育システムの変化も時代の大きなうねりでした。そうした中で、聴覚の活用も時代の推移の中で手指の時代へ、そしてその後の聴覚の併存の時代へと大きく様変わりしてきました。また、新生児聴覚スクリーニングが定着する中で、聴覚障害への取り組みも早期化してきています。こうした変遷の中から現在に求められていると思われる方向を探ってみたいと思います。